

ロールモデル講演会 実施報告書

- 【演題】 病院・薬局薬剤師が行う臨床研究について
【講師】 錦織 淳美 氏（肥後薬局 薬剤師、Pharm. D.）
【日時】 令和3年10月29日（金） 13:00～14:30
【場所】 岐阜薬科大学（Zoomによるオンライン講演会）
【参加者数】 138名（岐阜薬科大学 137名、岐阜大学 1名）



講師は岐阜薬科大学卒業後、米国フロリダ大学薬学部において臨床薬剤師の学位である Doctor of Pharmacy (Pharm.D.) を取得した。帰国後は、大学病院薬剤部において病棟担当薬剤師業務、学生の教育、執筆活動など、幅広く活躍してきた。また、薬剤師シミュレーション教育や薬薬連携についての研究など、科研費も取得して研究活動も活発に行ってきた。現在は、保険調剤薬局に勤務している。

まず、医療人が行う研究（臨床研究）についてお話いただいた。業務中に生じた疑問点の解決法を研究課題にして、複数の職種からなるチームで研究計画を作成し、解決に向けて取り組んできた。次に、海外視察の結果を報告していただいた。病院・薬局の状況や、アメリカの退院後フォローアップシステムなど、日本とは違うシステムが採用されていることを説明してくれた。

講師の研究成果の1つでもある、薬剤師シミュレーション教育の開発について紹介があった。薬剤師だけではなく、栄養士や看護師など多職種と連携して行う訪問医療行為での薬剤師としての技術向上と意識啓発につながっているとのことであった。

また現在は薬局薬剤師として業務に当たっており、病院とは違う臨床研究についての話を聞いた。研究計画の一部も紹介していただき、問題点を見つけて解決方法を考える、それによって研究テーマを考えるという思考の違いはないことが分かった。今後科研費の申請につなげたいとお考えである。

最後に、ワーク&ライフバランスおよびそのマネジメントについて、自分の経験や今後の目標・展望についてお話しいただいた。展望としては、職場環境の整備や多様な働き方の導入、ロールモデル紹介やメンター制度の拡充、有効な生涯教育システムの確立など、これから時間的制約が無くなる自身が次世代のためにも考えることをお話しいただいた。また、研究マインドをもって問題点や疑問点を抽出していくことや、時代の流れを感じるアンテナを張り巡らせて問題点を考えることなど、これから社会に出る学生にとってアドバイスとなり、自分自身の将来を考えさせる話であった。また、人生の優先順位をつけること、そして気力を維持する工夫をしてほしい、と学生に励ましをもらった。

大学病院での臨床研究の内容、海外の様子、また薬局薬剤師の業務と研究課題についてなど、様々な働きや取り組みについて紹介してもらい、普段ではなかなか知ることのできない臨床研究者としての薬剤師の姿を具体的に知ることができた。また、結婚、出産などライフイベントの話だけではなく、仕事に取り組む姿勢についても話していただき、学生にとっては将来を考えるきっかけとなり、大いに参考になる有意義な講演会であった。